

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 40

2023年10月31日

子どもシェルター全国ネットワーク会議 in 広島を開催しました

2023年9月30日（土）、10月1日（日）に、広島弁護士会館において、子どもシェルター全国ネットワーク会議が開催されました。これは、全国の子どもシェルター関連団体が一堂に会して、研鑽を深め、日々の悩みを共有し、より良い支援を目指していくという会議です。毎年、全国の子どもシェルター運営団体が持ち回りで開催をしていましたが、今年は、140名近い方々が広島に集結されました。個別の分科会の活動などは、他の方のご紹介に委ねますので、簡単にそれ以外の点をご報告します。

初日は、参加者紹介、第三者評価項目への意見交換、行政説明、総会を行い、個別の分科会に進みました。冒頭の挨拶から時間が押しまくり、自分の読みの甘さを痛感したり、総会資料が当日までには届かずPC画面をスクリーンに投影してもらおう等の軽いトラブルには見舞われましたが、恙無く進行しました。第三者評価項目については、今後、シェルターへの第三者評価が進むにあたり重要なポイントとなるため、引き続き各団体で検討して意見を出すこととなっています。

二日目は、分科会の報告、退所者アンケートの報告、ファンドレイジングについての説明の後、新規開設団体等からの質疑応答を行いました。ファンドレイジングについては、より支援をしてもらいやすくするためにはどうすべきかという工夫が示され、当法人としても大変勉強になりました。

私は、実行委員長を務めさせていただきましたが、スタッフ、事務局、理事、コタン弁護士など多くの関係者が前向きに準備に取り組んでいただいたお蔭で、大きな混乱もなく無事に会を終えることができました。全国の皆様が、帰る際に「ありがとうございました。」と笑顔で帰られる姿を見て、僅かかもしれませんが皆様の力になれたことを実感しました。改めて、これまで支援を継続していただいている皆様、今回の全国会議に尽力していただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

理事 砂本 啓介

各分科会の概要などをご紹介します

運営分科会

運営分科会には、20団体の理事者ら42名とオブザーバー3名の45名が参加され、熱心な意見交換が行われました。今回の分科会では、事前に実施

したアンケートの結果を報告し、その回答などから窺えた各団体の課題や悩みについて、時間の許す限り意見交換を行いました。



意見交換では、①職員を確保するための工夫、②理事と職員、子ども担当弁護士の意識共有をはかるための取り組み、③LGBTQ+と思われる子の受け入れや入居した後の対応などについて話し合われました。

また、退所した子に対するアフターフォローの対応をしている子ども担当弁護士の取り組みについて、カリヨン子どもセンターが行ったケアリーダー調査の内容の紹介があり、それを受けて全国会議から、子ども担当弁護士のアフターフォローの活動に対し日弁連の子ども援助事業からの費用の支給を求める意見書を出すことについて意見交換をしました。

時間切れになった感もありましたが、活発な意見交換がなされ、各団体が課題や悩みを抱えながらも、様々な工夫をしておられることを知る機会となり、有意義な意見交換がされました。

理事長 鵜野 一郎

職員（シェルター）分科会

職員（シェルター）分科会は、ピピオの家職員3名、広島弁護士会の濱野と私（金江）の5名のチームで準備をしました。当日までバタバタしていましたが、なんとか無事に終わってほっとしています。



さて、職員分科会では、各団体の子どもシェルター職員など36名が参加し、第1日目は、一般社団法人子どもの声からはじめようの代表理事川瀬信一さんをお迎えして、「こどもの心の声を聴

く～こどもアドボカシー～」と題した講演を行っていただきました。川瀬さんの施設や里親家庭で過ごした実体験をもとに、そもそもなぜアドボカシーが必要なのかと基本的なことから、児童相談所での訪問アドボカシー活動など実践的なことまで教えていただきました。その後の質疑応答も盛り上がり、その中で「答えのないものに一緒に向かい続けることが大切」という指摘が印象的でした。その後、事前アンケート結果を基にして、「ケース会議への子ども自身の参加」について意見交換を行いました。

第2日目は、会議終了後、スタッフ交流会と題して、広島名物のむさしのお弁当を食べながら、職員同士で日々の困り事や工夫している点をざっくばらんに報告し合いました。あっという間に1時間が過ぎて話足りなかったのも、またの機会があればと思います！

弁護士 金江 聡美

自立援助ホーム分科会

自立援助ホーム分科会は、竹森、寺本、門脇、毛利の4名で準備をさせていただきました。担当者間で意見交換をして、①自立支援も含めたアフターフォローについてと、②コタンとスタッフ

との役割分担、という2点をテーマとしました。分科会には、各団体の自立援助ホーム職員など19名が参加しました。



自立支援の取り組みとしては、金銭管理の場面が特に、参加者全員が気にしている部分でした。単に、収支結果をつけさせるだけではなく、今後の資金計画を立てさせるなど、それぞれの団体に

コタン（子ども担当弁護士）分科会

コタン分科会では、全国から参加した子ども担当弁護士ら約30名に対し、事前に行ったアンケートの結果を報告し、意見交換を行いました。



前半では、「自宅に帰れるかどうか」について子どもと児童相談所との意見が対立した事例を基にコタンが子どもの意見形成・表明支援のためにどのような活動をすべきかを考えました。方法

懇親会

リーガロイヤルホテル広島にて、110人を超える方々にご参加いただき、懇親会が行われました。ピピオの鶴野理事長と、子どもシェルター全国ネットワーク会議の内田会長から乾杯の挨拶をいただき、スタート。

当方のテーブルでは、自立援助ホームとコタン弁護士の関係のあり方や、シェルターを継続して運営するためのマンパワーの問題などについて情報交換がなされていました。

おける工夫について、実のある意見交換の時間を過ごさせていただきました。

一方、コタンとスタッフの役割分担では、前半の議論が集中しすぎて、あまり時間をとることができませんでした（すいません・・・）。もっとも、スタッフから見たコタンごとのスタンスの違いなど、気づきを与えていただきました。

今回の意見をもとに、よりよい運営ができるよう、引き続き尽力して参りますので、今後ともよろしく申し上げます。

弁護士 門脇 慧

に違いはあるものの、子どもの意見が実現しなかったとしても、子どもが「自分の考えをきちんと伝えてもらった」という思いで次のステップを踏めるよう伴走することが重要であるという点では、意見が一致したように思いました。

後半では、コタンを社会内で周知したいという思いがあり、また、コタンとして、ときに不安定になる子どもと向き合うことの難しさを感じた事例があり、それぞれ題材としました。コタンの社会内での認知は進んでいませんが、報告者のような苦労はあまり聞かれませんでした。他方、子どもの心配な行動に対応する際にコタンが孤立しないようにシェルター側による協力体制があると良いなどの意見を紹介しました。

弁護士 大畠 礼香

余興では、クイズ大会（ロゴ当てと、広島ご当地問題）を行いました。問題が難し過ぎる、との声もありましたが、優勝テーブルは7問正解という好成績でした。

終盤では、次回開催地の話題となり、埼玉県の子どもセンター・ピピにバトンを渡すこととなりました。本会議実行委員長の砂本弁護士による挨拶とピピの理事長大倉弁護士による三本締め、中締めとなりました。

オンライン会議を経験した今、全国各地からお越しいただいた、思いを同じくした人々と実際に会って飲食を共にすることの意義は大きく、率直な意見・情報交換をする機会となったと思います。

皆様、ご参加いただきありがとうございました。

弁護士 菅谷 英美

子どもシェルター退居者へのアンケート結果報告

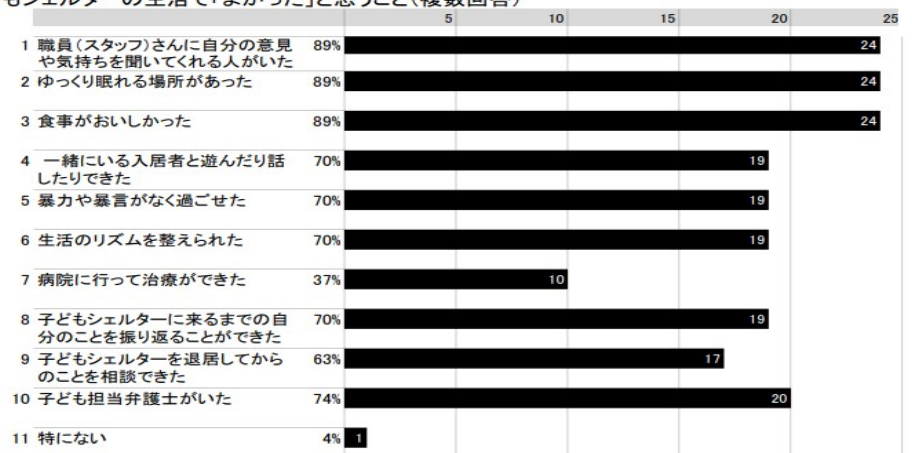
全国会議における初めての取組として、今回子どもへのアンケートを実施しました。期間は2023年4月から8月までの5か月間、全国シェルターネットワーク会議に参加の19団体のシェルターから退

居する子どもたちにアンケートを配布し、封緘した回答をピピオに送付いただく方式で実施し、27人の各地の退居者から回答を得ました。その回答結果からいくつか抜粋してお知らせします。

①よかったこと

複数回答可でしたが、回答者が多くの肢にチェックをくれました。特に、「スタッフが気持ちを聞いてくれる」「ゆっくり眠れる場所がある」「食事がおいしい」「子ども担当弁護士」といった、シェルターが大事にしていることに高い評価が得られました。

子どもシェルターの生活で「よかった」と思うこと(複数回答)



②してもらったこと・できたこと

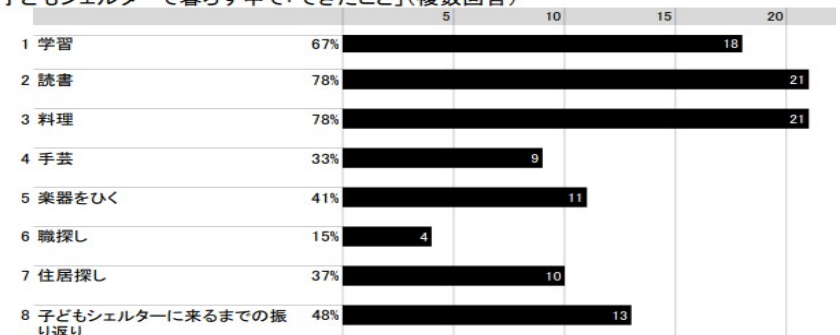
これらも、多くの子どもから多くの質問肢への☑がありました。

してもらったことでは、「話がしやすかった」「分からないことを聞いたら教えてくれた」といったコミュニケーション上の安心感、また、生活用品の心配がなかったことが上位となりました。また、できたことでは、「読書」と「料理」が上位となりました。落ち着いた時間を過ごし、またスタッフ等と一緒に料理を作ることを入居者にとって貴重な経験となっているようです。

子どもシェルターで暮らす中で「してもらったこと」(複数回答)



子どもシェルターで暮らす中で「できたこと」(複数回答)



③変えた方がよいこと

やはり、「スマホ」「連絡」「外出」といったシェルターでの制約が上位となりました。子どもの気持ちを受け止めつつ、シェルターとしての意義を引き続き考えていきたいと思えます。もっとも、①②と比べ、意外にも選択者数が少なく、子どもたちに一定の理解も得られていることが分かりました。

④まとめ

今回のアンケートは初めての取組で、回答を全く予測できませんでした。回答数は決して多くないですが、それでも、寄せられたアンケート結果からはシェルターが子どもたちに支持される場所となっているものと捉えることができました。

たくさんの苦労を重ねながらも、全国で展開さ

子どもシェルターの生活で「変えた方がよい」と思うこと(複数回答)



れるシェルターの意義を、子どもたちの声から感じることができました。できれば、改善を図りつつ、子どもアンケートを来年も引き継いでいってもらえたらと願っています。

理事 平谷 優子

会員の皆様へのご挨拶 砂本 啓介

今年度より、理事として就任させていただいた弁護士砂本啓介と申します。これまでも子ども担当弁護士、事務局対応なども行っており、この会報にもJaSPCAN参加の記事を何度も寄稿しているので、はじめましての方は少ないでしょうが、どうぞよろしくお願いいたします。

私とピピオの出会いは、第1回の子どもの日記念シンポジウムでした。当時、少年事件などを何件か担当し、非行少年の問題の原因として根深くある、子どもの福祉に関する問題に少し興味はあったものの具体的な関りは何もありませんでした。そんな中、最初のシンポジウムにいち参加者として参加し、劇に魅了され、子どもシェルターの必要性を強く感じました。すると、翌年のシンポジウムの劇に出演を打診され、興味半分出演を承諾したところ、弁護士側の主役ポジション(子ども担当弁護士、通称コタン弁護士の役柄)

を与えられました。丁度、ピピオの家が開設直後で、まだ入居者がいない中、当日の演劇が行われ、その夜の打ち上げで平谷先生から「1件目のコタンをお願いしたい。」と言われ、実際に1件目のコタン弁護士をすることになったのです。今思えば、そこから子どもの虐待問題との関りは始まったのですが、何事も興味を持ったことへの一歩を踏み出してみることから始まるのだなと感じています。

これまで長年ピピオや少年事件で子どもたちに関わる中で感じているのは、私自身の人生経験で想像したことのない過酷な日常生活を送っている子どもたちが、実は沢山いるということです。私自身、決して裕福とまでは言えない家庭で育ちましたが、日常生活が厳しいということもなく、高校進学、大学進学、一人暮らしなど自分で自分の人生を選ばせてもらいましたし、それを家

庭環境によって否定されるということはありませんでした。しかし、実際にはこのような生き方が当たり前ではない子どもたちがいます。そんな子どもたちが、自分で自分らしく人生を選んで生きていけるように少しでも手助けをしたい。そう思います。そのために、ひとりの大人ができることなんて限られており、できるだけ多くの大人の

手助けが必要となります。是非、子どもたちが自分で自分らしく人生を選んで生きていくということの手助けを私たちと一緒にしていただければ幸いです。

理事 砂本 啓介

第13回通常総会のご報告

2023年度（第13回）通常総会が、2023年6月17日午後2時から広島弁護士会館で開催され、正会員63名のうち委任状出席も含め50名の方が参加されました。

総会では、令和4年度事業報告及び収支決算の件、令和5年度の事業計画及び活動予算の件について、いずれも全員一致で議案のとおり決議、承認されました。その中で、令和5年度の事業として、子どもシェルターの物件の移転やアフターフォローなど今後の活動について意見交換がされると共に、2023年9月30日、10月1日の2日間にわたり子どもシェルター全国ネットワーク会議in広島を開催し、全国各団体の取り組みや情熱に接する中で、私たちの今後の活動の在り方を考え、また活動を進めていくエネルギーを吸収する場としていくことも確認しました。

さらに、役員の変更が承認されると共に、新たな理事に弁護士の砂本啓介氏が、また副理事長として上野和子氏が就任されることが承認され、それぞれ挨拶をいただきました。

今後とも、困難を抱え居場所をなくした子どもに寄り添い、その思いを受け止め、見守り、子どもが「生まれてきてよかった」「ひとりぼっちじゃない」「自分の道は自分で選んでいい」と感じられるような支援を行うという活動の原点を共に確認しながら、さらに安定、かつ充実した活動を進めていきたいと考えておりますので、暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長 鵜野 一郎

■NPO法人ピピオ子どもセンター 役員名簿

第13回通常総会における役員を選任等により、役員体制が次のとおりとなりました。

理事長	鵜野 一郎（弁護士）
副理事長	上野 和子（NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長）
理事	大石 結加（広島県社会福祉士会 子ども家庭支援委員）
理事	掛 幸太（司法書士）
理事	桑原 正彦（小児科医）
理事	砂本 啓介（弁護士）
理事	寺西 環江（弁護士）
理事	那須 寛（弁護士）
理事	蓮見 和章（弁護士）
理事	平谷 優子（弁護士）
監事	奥 兆生（公認会計士・税理士）

■2022年度 「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者の概要

	ピピオの家（女子）	はばたけ荘（男子）
2022年度中に入居者数	9名	6名
うち2021年度からの継続	1名	3名
うち2022年度中の新規入居	8名	4名
入居時の年齢	15歳 1名 17歳 2名 18歳 3名 19歳 2名	16歳 2名 18歳 1名 19歳 1名
2022年度中の退居者数	9名	3名
入居期間	半月～1か月 3名 1か月～2か月 3名 2か月～3か月 1名 3か月～4か月 2名	8か月 1名 10か月 1名 1年 1名
退居後の行き先	親のもとへ 3名 アパートで一人暮らし 1名 自立援助ホーム 4名 その他の施設 1名	アパートで一人暮らし 3名

ボランティアスタッフ養成講座を開催しました

今年度の第13回ボランティアスタッフ養成講座は、6月7日から7月12日までの間に対面で全6講を開催しました。

新しくボランティア活動への応募をされた17名の皆さんのほか、弁護士、ピピオの家・はばたけ荘のスタッフも参加し、社会的養護の子ども、発達障害・愛着障害、性被害経験のある子どもとの関わり方などを学びました。また、最終の回で催した交流会では、応募者の皆さん、

スタッフらとの親睦を図りながらピピオの家・はばたけ荘についての詳しいお話しをする機会ともなりました。

応募者の皆さんは大変熱心に受講され、そのうちの多くの方が新しいボランティアスタッフとして加わって下さいました。

ボランティアスタッフの皆さま、今後ともピピオへのご協力をよろしくお願いいたします。

スタッフ通信

はばたけ荘スタッフのTです。

現在（2023年10月）5人の男の子たちが自立に向け生活をしています。5人とも高校生で、大学・専門学校へ進学を目指す子ども、就活をしながらやりたい仕事を見つけ社会人になろうとする子どもたちが共に生活しており、一人一人の願いや目的が達成できるようにスタッフは伴走しています。

☆皆さんの支援で子どもの自立を

その一 「力強いボランティアの皆さん」

はばたけ荘を支援していただき頼もしく思っているのは、ボランティアの皆さんです。なくてはならない存在でもあります。食事ボランティア、宿泊ボランティア、子どもの話を聞くボ

ランティアの方々です。

9名の食事ボランティアの方は、食べ盛りの子どもたちの栄養価を考えるだけでなく、美味しくたっぷりと食べ元気が出る夕食を作っています。「このおかず食べますかね」「子どもたちの反応はどうですか」「新鮮な魚があったから買ってきました」など、子どもたちにたっぷり食べてもらおうと毎回工夫されています。愛情たっぷりの夕食を食べると、学校・バイトで疲れて帰ってきた子どもたちは、自然と笑顔が出て饒舌になるのです。

宿泊ボランティアの方には、月に1・2回宿泊をして子どもたちと過ごしてもらいます。スタッフとは違った視点から子どもの良さを引き出し元気や勇気を出させて下さいます。

子どもの話を聞くボランティアの方は、一緒に食事をしながら時間をかけて子どもの話を聞いてくださいます。子どもの興味・関心のある話題を出しながら子どもの語るのをじっくり聞いてもらっています。

ボランティアの方は、自分の仕事を持ち、子どもたちのために自分の時間を割いて協力して下さいます。しかも、ピピオ子どもセンターが行う「ボランティア養成講座（6回）」に、受講料を支払って受講され参加されています。

私たちスタッフはボランティアの方からその姿勢や考え、工夫に学ぶことが多くあり、子どもたちに寄り添うヒントも得て元気が出てきます。

その二 「温かいご近所」

地域の中の援助ホームであることを常に意識し地域コミュニティから仲間として認められる荘でなければいけないと思っています。積極的に挨拶をするなど心がけています。「ゴミがカラスに食われていたよ。今度からネットだけで

なくシートも被せた方がいいよ」と、散乱したゴミを掃除して下さったり、「行事でぜんざいなど出るから参加したら」など地域の行事のお誘いを受けたりしています。台風で駐車場の屋根が一部破損した時には応急修理を手伝っていただいたこともあります。ご近所の温かい声、ヘルプがあることで安心して子どもたちと生活でき感謝しています。

☆課題として

多くの支援をいただき子どもたちは自立していきますが、羽ばたいた子どもたちの中には、自立の道を歩んでいたのに仕事を辞めるなど躓く子どももいます。話を聞いたり、相談を受けたり、また食事をさせるなどして、子どもたちが再び元気になるようサポートをしています。十分なサポートが出来ないのが現状であり悩みです。躓いた子どもが自信をもって前に進むことができるよう荘を出た子どものサポートの在り方等を工夫・改善していきたいと思っています。

ピピオ掲示板

寄付等のご協力ありがとうございました

前田様、平田様、川瀬様、神原様、小武家様、井上様、高井様、橋本様、小根森様、山口様、寺西様、倉田様、片桐様、瀬戸様、米澤様、国際ソロプチミスト広島-もみじ様、高橋様、向田様、石田様、山本様、宝不動産株式会社様、日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会様から寄付金等をいただいております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。
この場で御礼申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>